

株式会社ノリタケカンパニーリミテド

1. 会社の概要

(1) 会 員 名：

株式会社ノリタケカンパニーリミテド

(2) 所属部会：関西化学部会第1分科会

(3) 資 本 金：156億3,200万円

(4) 従業員数：5,091名（連結2019.3末）

(5) 事業内容：

食器製造で培った製造技術を様々な応用・発展させた4つの事業を展開しています。研削砥石やダイヤモンド工具で産業界を支える工業機材事業、セラミックスの原材料を様々な製造業に供給するセラミック・マテリアル事業、製造設備や技術を開発・提案するエンジニアリング事業、豊かな食卓を演出する食器事業。それぞれの分野で、お客様と社会のために新たな価値を創造しています。

(6) 社 是

良品，輸出，共栄

「良品」良識を持ち誠意を尽くして良品主義に徹します

「輸出」世界的視野に立って，国際性を追求し，社会に貢献します

「共栄」良き企業社会人としての役割を果たし，社会とともに発展します

(7) CIマーク

Noritake

(8) 会社の沿革

1904年，洋食器の製造を目的として，前身となる「日本陶器合名会社」を創立しました。

その後，1914年には日本初のディナーセットを完成させるなど，世界中に知られる食器ブランドへと成長していきました。現在は，洋食器製造で培った技術を追求し，工業用砥石，電子部品素材など様々な分野で事業を展開しています。

2. 知的財産部門の概要

(1) 組織上の位置及び名称

当社の知的財産部門は，ノリタケカンパニーリミテド全体の要素技術開発・商品開発の中核を担う開発・技術本部に属しており，組織の名称は知的財産室です。

(2) 構 成

現在は，当社の多くの開発部門が集まる三好事業所内に所属し，特許・意匠・商標の出願・権利化，及び管理を事業部別の担当者で担っております。事業部，開発・技術本部との密な連携で発明発掘と権利化に向けた業務を推進しております。



開発・技術本部 研究開発棟（愛知県みよし市）

(3) 知財部門の沿革

当社の知的財産部門は、過去に開発・技術本部や経営管理本部に所属していましたが、2016年10月から、現在の開発・技術本部に所属を移し、その際に、知的財産課から知的財産室へと部門に昇格し、現在に至ります。

3. わが社の知的財産活動

(1) 基本方針

知的財産権を活用し事業拡大・成長を目指した活動を継続するため、事業部門、研究・開発部門、知的財産部門が一体となり、事業動向、技術動向の調査に基づく適切な知的財産権の獲得とその権利の戦略的な活用により、差別化された商品の保護を行い、お客様により良い価値を提供することを基本方針としています。

(2) 社内知的財産教育

当社の事業分野は、食器事業を原点とし、食器や製造設備などの最終製品を取扱う事業から、セラミックスの原料や部材などを取扱う川上事業まで広がっております。よって、事業部ごとに知的財産に関わる困りごとや要望などが異なることから、従来までの画一的な知財教育を廃止し、事前に各事業部別のニーズを把握し、過去事例や現状および将来予想される問題・課題など受講者が関わっている事業の状況・特徴を考慮した内容を盛り込んだ個別の知財教育を実施しております。また、開発活動を行う上で欠かせない秘密情報管理など事業部共通の課題についても、相手方への情報開示方法の工夫や先使用权確保のための手当てなど問題解決のための提案を行うことで、技術者が自らの手で生み出した大切な技術を守る意識を高めるとともに、権利化のための意欲も引き出し、知的財産活動が更に活性化するよう工夫しています。

(3) 出願業務

従来までは、事業部からの発明提案をもとに知財部門との連携を開始することが多くありま

したが、それでは、対応が後手になる、出願までに時間を要するなど問題が生じておりました。その対策として、現在では、期首に各事業部門と年間の出願戦略（テーマ・対応・スケジュールなど）を事前に協議し、それを基にした先回りの知財連携を行うことで、他者権利に対する対応や、権利化範囲を意識した実験データ収集などが効率よく実施できるようになったことで、出願件数の増加以外にも特許出願までの期間の短縮や、発明の質も向上しております。また、出願までに事業化計画（量産時期、海外戦略など）についても事業部と事前に協議しておくことにより、審査請求、外国出願などを、事業計画に合わせて、戦略的に実施するようにしています。

(4) 特許技術を活用した商品のPR

今年度、社内ホームページ上に知財サイトを開設し、当社の知的財産に関わる活動方針や、特許技術を活用した商品の詳細説明を掲載しました。今後も掲載する商品の拡充を実施するとともに商品カタログや定期的に配信しているノリタケテクニカルジャーナルなどにも特許情報を掲載し、お客様に特許技術を分かりやすく説明することにより、商品のPRに活用していきます。

4. 今 後

当社は、様々な産業分野向けの原材料、部材や、産業界を支える研削砥石、お客様の目的に合った製造ソリューションを提案する製造設備などの商品によって、社会に貢献するとともに社会とともに発展します。知的財産室としても社是である良品を守るべく、事業・商品を知的財産権で適切に保護し、差別化された商品をグローバル市場に提供していくことで事業の発展に貢献していきたいと思っております。

(原稿受領日 2019年12月27日)